



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

診療機能紹介2024



周防灘の美しい景観と
木々の緑に囲まれた
自然が豊かで、快適な療養環境

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

contents

院長挨拶	P1
内科、呼吸器内科	P2
精神科、循環器内科	P3
腫瘍内科	P4
小児科	P5
外科、呼吸器外科	P6
乳腺・消化器外科	P7
緩和ケア内科	P8
放射線科、臨床研究部	P9
コメディカル等	P10～14
看護部、認定看護師	P15～16



院長挨拶



山口宇部医療センター

院長 亀井 治人

山口宇部医療センターは、

- ・ 専門医療機関ならではの陣容と実績をもって、良質な医療を提供します。
- ・ 国立病院機構の一員として、国の政策医療に貢献します。

山口宇部医療センターは、『**山口がん・呼吸器センター**』の別称のごとく、肺癌や悪性中皮腫を主とする**がんの専門的診療**、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、結核を含む呼吸器感染症など、様々な**呼吸器疾患の専門的診療**の領域に特化している「**専門医療機関**」です。そして、がん診療において欠かすことができない、**がんと共に生きる患者さんとご家族の痛みや苦しみ、不安を和らげることを目標とする全人的なアプローチである緩和ケア**にも力を入れており、がんの治療のために入院された患者さんをサポートする緩和ケアチーム、そして緩和ケアを主体とする診療を希望される患者さんに対応する専門病棟として緩和ケア病棟が設置されています。

さらに、国立病院機構の重要な使命である**セーフティネット医療分野**においては、**結核診療**とともに**重症心身障害児（者）に対する専門的診療と療育**を担当しています。

病院の理念に「患者さんの権利の尊重と最新の医学知識に基づく医療の提供」を掲げ、各分野において最善の医療を高品質に提供する実力を備えるとともに、多職種協働による説明と同意に基づいた患者さん中心の医療を実践することによって、患者さん自らが最良の医療を選択し、享受することができる医療環境の整備を目指しています。

さらに、他の医療機関との連携を密にすることによって地域全体の医療レベルの向上に寄与すること、治験や臨床研究に積極的に参画して新たなエビデンスの創出に貢献すること、そして、臨床と研究を通じて次世代を担う人材の育成に取り組むことも当院にとっての重要な責務であると考えています。

山口宇部医療センターは、患者さんにご家族に信頼される、そしてここに集う職員がやりがいを持って働くことができる、そういう皆にとって「よい病院」であり続けるために、今後も努力いたして参りますのでご支援のほどよろしくお願いを申し上げます。

内科、呼吸器内科

当センターは、国立病院機構の中国地方における呼吸器の基幹病院と認定されています。呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、アレルギー学会などの認定専門医が診療に当たっています。

対象疾患等

市中肺炎、アレルギー性肺疾患（薬剤性肺炎を含む）、閉塞性肺疾患、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、肺結核などあらゆる呼吸器疾患、慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法、他院で対応困難な呼吸管理を必要とする重症肺炎、急性呼吸不全など

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
院長	 亀井 治人 (かめい・はるひと) 岡山大学 S59.3	岡山大学医学部臨床教授、山口大学医学部臨床教授・非常勤講師 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医 日本癌治療学会 臨床試験登録医、日本臨床腫瘍学会 暫定指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・指導責任者 ICD制度 認定ICD(日本呼吸器学会)、地方じん肺診査医(山口労働局) 日本医師会 認定産業医
呼吸器科 医長	 恐田 尚幸 (おそだ・ひさゆき) 防衛医科大学校 H14.3	日本内科学会 総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医
呼吸器科 医長	 坂本 健次 (さかもと・けんじ) 山口大学 H19.3	日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本内科学会 総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医 インфекション・コントロール・ドクター
呼吸器科 医師	 末竹 諒 (すえたけ・りょう) 山口大学 H26.3	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本アレルギー学会 アレルギー専門医(内科) 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会 認定医 インフェクション・コントロール・ドクター
呼吸器科 医師	 兼定 晴香 (かねさだ・はるか) 愛媛大学 H27.3	日本内科学会 認定内科医
呼吸器科 医師	 上原 翔 (うえはら・しょう) 山口大学 H27.3	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医

内科、呼吸器内科

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
呼吸器科 医師	 久本 優佳里 (ひさもと・ゆかり) 山口大学 H31.3	日本アレルギー学会 所属 日本内科学会 所属 日本呼吸器学会 所属
呼吸器科 医師	 米澤 恒成 (よねざわ・こうせい) 山口大学 R2.3	日本内科学会 所属 日本呼吸器学会 所属
呼吸器科 医師	 渡邊 倫哉 (わたなべ・みちや) 山口大学 R2.3	日本内科学会 所属 日本呼吸器学会 所属
内科 医師	 石田 浩一 (いしだ・こういち) 岐阜大学 S46.3	専門分野 肺結核、呼吸器

精神科

精神科医、心理療法士・公認心理師が診療に当たっています。

主に、がん、慢性呼吸不全などの呼吸器疾患のため、当院で治療中の患者さんの心のケアを行っています。また、落ち込み、不安などの症状を呈する下記のような疾患の治療も行っています。

当科での治療は外来診療のみのため、入院治療が必要と判断される時には、精神科病床を有する病院へ


紹介させていただいております。

初診の方は、時間を要するため事前にご連絡頂き予約を取って頂ければ幸いです。

対象疾患等

うつ病を中心とする気分障害、パニック障害などの不安障害、ストレス関連障害、老年期精神障害、てんかんなど

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
精神科 医師	 小野 光弘 (おの・みつひろ) 徳島大学 S60.3	日本精神神経学会 精神科専門医・指導医 精神保健指定医 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医・指導医

腫瘍内科

腫瘍内科ではがん患者さんに「がん化学療法」を受けていただくにあたり、私たちが特に心がけていることがあります。

1. 安心して抗がん剤治療を受けていただくこと

抗がん剤は血圧の薬やコレステロールの薬と違い効果が現れる量と副作用が見られる量がほとんど同じです。効果が現れるより少ない量で副作用が見られることもあります。つまり、副作用が見られることを前提として治療に取り組む必要があります。そのため初回治療は入院していただき重大な副作用に対する早期発見早期治療を行っています。また、患者さんに安心して「がん化学療法」を受けていただくために、医師、看護師、薬剤師、栄養士、治験コーディネーター、理学療法士、臨床心理士など多職種がチームとして関わるチーム医療を実践しています。

2. EBM(科学的根拠)に基づいた標準的治療を熟知し診療に当たること

標準的治療は年月と共に変わっていきます。日々知識を刷新し治療に当たる必要があると考えています。標準的治療を熟知したうえで患者さん一人一人の体調、合併症などを考慮した個別の「がん化学療法」を提示させていただいています。

がん患者さんにとって、「がん化学療法」と「放射線治療」を同時に併用する治療がより有効な場合もあります。さらに「手術療法」を追加する場合もあります。現在のがん医療においては、こういった集学的治療が重要であると考えられています。集学的治療を実践するため「腫瘍内科」「放射線科」「外科」の合同カンファレンスを行い、患者さんにとって最も望ましい治療について話し合っています。




3. 患者さんの意思を尊重すること

「がん化学療法」を受けられるがん患者さんにとって、期待される治療効果が治癒ではなく延命や、症状の改善である場合があります。治療法の選択には患者さんの意思が尊重されます。「がん化学療法」を受けられないという選択肢もあります。患者さんの意思にそって私たちはチームとしてお力になりたいと考えています。

対象疾患等

肺がん、悪性胸膜中皮腫などの胸部悪性疾患を中心に消化器がん、乳がん、一部の血液がん(悪性リンパ腫)、原発不明がんなどの「がん化学療法(抗がん剤治療)」

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
統括 診療部長	 青江 啓介 (あおえ・けいすけ) 広島大学 H1.3	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医 日本癌治療学会 暫定教育医 環境省中央環境審議会 専門委員 日本内科学会 総合内科専門医
内科系 診療部長	 近森 研一 (ちかもり・けんいち) 岡山大学 H3.3	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医 日本内科学会 総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医
腫瘍内科 医師	 前田 忠士 (まえだ・ただし) 鳥取大学 S61.3	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医 日本内科学会 総合内科専門医

小児科

当センターの重症心身障害児者病棟は昭和45年に開棟いたしました。現在、きらら東病棟60床、きらら西病棟60床、計120床となっています。医師、看護師、業務技術員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、児童指導員、保育士、特別支援学校教員など多職種が利用者さんに関わっています。医療面では当院他科の医師や他院の先生方の多大なご支援により、利用者さんの療養が継続できています。

当センターの重症心身障害児者病棟には多くの医療的ケアを必要とされる方が入所されています。令和6年3月25日現在で、人工呼吸器による呼吸管理が27名、気管切開が48名、経管栄養(胃管、十二指腸チューブ、胃瘻、腸瘻等)が80名となっています。年月の経過とともに、利用者の方々も年を重ねられており、4歳から74歳まで様々な年齢の方が入所されています。日々の医療

的ケアに加えて、誤嚥性肺炎、てんかん、イレウスなどの疾患に対して他科の医師の支援うけながら、対応しています。

在宅支援については通所事業「マラウ」を定員5名で運営しています。人工呼吸器を装着されているような重症度の高い方のご利用も可能です。病棟への短期入所も行っておりますが、1日2名程度の受け入れとなっております。

対象疾患等

重度心身障害児(者)

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
小児科系 診療部長	奥田 裕美 (おくだ・ゆみ) 京都府立医科大学 H6.3	日本小児科学会 小児科専門医 専門分野 重症心身障害児(者)
小児科 医師	沖野 文子 (おきの・ふみこ) 広島大学 S52.3	日本小児科学会 小児科専門医 専門分野 重症心身障害児(者) 小児アレルギー(喘息、アトピー等)
小児科 医師	杉 洋子 (すぎ・ようこ) 山口大学 S58.3	日本医師会 認定産業医 専門分野 重症心身障害児(者)
小児科 医師	 小林 光 (こばやし・ひかる) 熊本大学 H26.3	専門分野 重症心身障害児(者) 日本小児科学会 所属 日本小児神経学会 所属

外科、呼吸器外科

当院は、風光明媚な山口県の中でも周防灘（瀬戸内海）に面した抜群のロケーションに位置しています。また、空港、鉄道、高速道路からのアクセスも大変良く、県内のみならず県外からも多くの方々が来院されています。当院は山口県のがん診療連携推進病院で呼吸器外科基幹施設です。経験豊富な呼吸器外科専門医が3人在籍しており、より高度で安全な手術を提供できていると自負しております。全身麻酔による年間手術件数は平均250件程度、肺癌手術症例は年間150件程度あり、2023年は肺癌手術の9割以上が完全鏡視下に行われています。

当院ではほとんど全ての呼吸器外科手術を行っていますが、とくに肺癌や良性肺疾患・縦隔腫瘍などに対する胸腔鏡下手術と進行肺癌に対する化学放射線治療後の手術、そして悪性胸膜中皮腫に対する手術などを行っています。また、他の医療機関からも気胸、膿胸の治療や手掌多汗症の手術など多数ご紹介いただいで

おります。呼吸器の専門施設としての役割を果たすとともに、患者と家族の方々に十分な説明を行い、ご理解をいただいた上で安心して手術を受けていただけるようにスタッフ一同、努めています。

対象疾患等

肺癌や良性肺疾患・縦隔腫瘍などに対する胸腔鏡下手術と進行肺癌に対する化学放射線治療後の手術、悪性胸膜中皮腫に対する手術、気胸、膿胸、手掌多汗症などほとんど全ての呼吸器外科手術

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
外科系 診療部長	 井野川 英利 (いのかわ・ひでとし) 岡山大学 H7.3	日本外科学会 外科専門医 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 胸腔鏡安全技術認定医
呼吸器外科 医長	 沖田 理貴 (おきた・りき) 広島大学 H10.3	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医 日本外科学会 外科専門医・指導医 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本呼吸器外科学会 評議員、胸腔鏡安全技術認定医 臨床研修指導医、緩和ケア研修会修了
呼吸器外科 医長	 岡田 真典 (おかだ・まさのり) 岡山大学 H18.3	日本外科学会 外科専門医・指導医 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 胸腔鏡安全技術認定医 日本移植学会 移植認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 肺がん CT 検診認定機構 肺がん CT 検診認定医 臨床研修指導医、日本臨床外科学会 評議員 日本内視鏡外科学会 技術認定取得者
呼吸器外科 医師	 近藤 薫 (こんどう・かおる) 岡山大学 R2.3	日本外科学会 外科専攻医

乳腺・消化器外科

乳癌については、当院で乳癌診断に必要な検査が一日で行える方法を取っています。手術、放射線治療、抗癌剤治療も当院で行っており、診断から治療まで安心してお受けいただくことができます。

乳癌検診(市検診、自費での検診いずれも)では異常が認められた場合、保険診療に切り替えて、必要な検査をその日のうちに実施します(1施設同時併用方式)。

1. 視診・触診検査

2. マンモグラフィー検査

マンモグラフィーは、乳癌を診断するための乳房専用レントゲン撮影装置のことです。当院では、放射線学会の仕様基準を満たすマンモグラフィーを備えています。また撮影したレントゲン写真は、乳癌検診学会の認定マンモグラフィー読影医2名が読影・診断しています。

3. 超音波検査

乳腺の病気の診断に不可欠な検査です。腫瘍の有無、性状、広がり、リンパ節腫大の有無などを診断できます。

4. 吸引細胞診検査

腫瘍に直接細い針を刺して、腫瘍の中の細胞を吸引・採取し、良性・悪性の診断をします。

5. 針生検組織診検査

細胞診より太い針を腫瘍に刺して、細長い組織を採取します。良性・悪性の鑑別に加え、組織型や浸潤・非浸潤を診断します。

その他、必要により以下の検査を追加します(全て当院で行えます)。

1. CT検査 2. 乳管造影検査

手術

乳房温存手術を中心に、必要に応じて乳房切除術などの外科的切除を行います。乳房温存手術の場合は、乳房温存療法ガイドラインに沿って、術後放射線治療を当院で行います。

薬物療法

手術前後、再発時に必要なホルモン療法、抗がん剤、分子標的治療薬を状況に応じて使い分けています。特

に、最近注目されている分子標的治療薬では副作用として薬剤性肺障害が危惧されますが、当院の呼吸器内科、放射線科と連携して慎重に治療を進めていきます。

消化器癌については、早期診断から手術・抗癌剤治療までの治療を行います。当院は呼吸器疾患の患者さんが多いため、肺機能が障害されている消化器疾患の患者さんに対しても手術、治療経験が豊富です。手術を含めた治療においても合併症は少なく、治療成績は安定しています。

消化器癌の早期発見とより低侵襲な治療に努めています。

1. 消化管内視鏡検査

上部・下部消化管(胃、食道、結腸、直腸、肛門)までの検査を中心に行っています。

2. 手術

上部～下部消化管(胃、小腸、大腸、直腸、肛門)までの手術を中心に行っています。良性疾患では、胆石症や総胆管結石症、単径ヘルニアなどの手術を行っています。

3. 腹腔鏡下手術

胆石症などの良性疾患はより低侵襲である腹腔鏡下手術を積極的に行っています。

4. 内視鏡的胃瘻造設術(PEG)、経皮経食道胃管挿入術(PTEG)

経口摂取が困難な患者さんには、身体的負担の少ない内視鏡的胃瘻造設術を行っています。

5. 化学療法・放射線治療

進行・再発癌に対して抗癌剤治療や放射線治療を行い、治療成績(切除率、生存率)の向上とquality of life(生活の質)の改善に努めています。

その他、甲状腺のエコーや細胞診も実施しております。

対象疾患等

乳腺疾患、消化器癌、甲状腺疾患

担当医

職名

医師名 / 卒業大学・卒年次

専門医資格等

乳腺・消化器
外科医長



平澤 克敏

(ひらざわ・かつとし)

山口大学
H2.3

日本外科学会 外科専門医
日本消化器外科学会 認定医
検診マンモグラフィー読影認定医

緩和ケア内科

緩和ケアとは、「病気に伴う身体と心のつらさを和らげる」医療のことを指します。


緩和ケア医師、精神科医師、緩和ケア認定看護師、心理療法士、薬剤師、栄養士が緩和ケアチームとして病室に伺い、さまざまな症状や悩みのご相談に応じています。

また緩和ケア病棟では、海が見える静かな落ち着いた環境で、病状の進行によるつらさを和らげ、生活の質の維持・向上を目的とした治療・ケアを提供しています。ご家族の気がかりやご不安にも対応し、患者さん・ご家族が穏やかに安心して過ごしていただけるよう支援します。

対象疾患等

各種がん

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
緩和ケア科 医長	 小笠原 啓子 (おがさわら・けいこ) 山口大学 H7.3	日本内科学会 認定内科医 日本緩和医療学会 緩和医療認定医
緩和ケア科 医長	竹内 愛 (たけうち・かな) 東京女子医科大学 H8.3	日本緩和医療学会 緩和医療専門医 日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器病専門医

放射線科

放射線科関連業務(画像診断・放射線治療)は診療上必須であり、とりわけ画像診断は、今やそれなしには診療行為は成立しないと言っても過言ではないでしょう。




平成20年10月から、院内でほぼ全ての画像がフィルムなしで、外来・病棟のコンピュータ画面上の鮮明繊細な画像として診療に用いられます。保管・運搬を含め、画期的な進歩です。テレビのデジタル化の更に進んだ

医学分野での応用とお考え下さい。沢山の画像が整理され、所見を付けて各臨床医に届けられます。

対象検査等

単純X線撮影、透視検査・消化管造影、マンモグラフィ(乳房撮影)、骨塩定量検査、CT検査、放射線治療等

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
副院長	 田中 伸幸 (たなか・のぶゆき) 山口大学 S63.3	日本医学放射線学会 放射線診断専門医 胸部放射線研究会 常任幹事、日本呼吸器学会 中国四国支部代議員 日本肺癌学会 中国四国支部代議員 日本医学放射線学会 胸部画像診断ガイドライン作成委員 検診マンモグラフィ読影認定医 日本医師会 認定産業医 肺がん CT 検診認定機構 肺がん CT 検診認定医師
放射線科 医長	 田口 耕太郎 (たぐち・こうたろう) 山口大学 H12.3	日本医学放射線学会 放射線治療専門医 日本放射線腫瘍学会 認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本緩和医療学会所属
放射線科 医師	 神谷 正喜 (かみや・まさき) 山口大学 H23.3	日本医学放射線学会 放射線診断専門医

臨床研究部

病理・形態研究室、生理・生化学研究室、病因・病態研究室、治験管理室、がん情報管理室

呼吸器疾患の病態、診断、治療に関する研究で世界に発信できるよう若い研究者と励んでいます。

分子生物学・細胞生物学実験設備を有し、糖鎖改変による抗体医薬開発にも力を入れています。

論文

1. Karashima 他, Albuterol delivery via in-line intrapulmonary percussive ventilation superimposed on conventional mechanical ventilation in an adult lung model. Respiratory Care (2024) 11249.

2. Kakugawa 他, Kinetics of pro- and anti-inflammatory


spike-specific cellular immune responses in long-term care facility residents after COVID-19 mRNA primary and booster vaccination: A prospective longitudinal study in Japan. Immunity & Ageing (2024) 21, 41.

3. Okita 他, Characterizing soluble immune checkpoint molecules and TGF- β 1,2,3 in pleural effusion of malignant pleural mesothelioma. Scientific Reports (2024)14,15947.

特許

抗炎症性非フコシル化免疫グロブリン製剤及びその製造方法(7523789)

担当医

職名	医師名 / 卒業大学・卒年次	専門医資格等
臨床研究 部長	 三村 雄輔 (みむら・ゆうすけ) 山口大学 H1.3	臨床検査医学 生化学、免疫学、糖鎖生物学

コメディカル等

医師や歯科医師とともに医療を行う専門職のことを指します。

放射線科

当センターでは、放射線診断医2名、放射線治療医1名、診療放射線技師7名、事務職1名、計10名で業務に当たっています。放射線科関連業務(画像診断・放射線治療)は診療上必須であり、画像診断は、今やそれなしには診療行為は成立しないと言っても過言ではありません。

当院では、令和4年2月から、放射線関連検査の画像(X線撮影、CT、マンモグラフィー等)をフィルムレスにて運用しています。PC画面上で鮮明繊細な画像として提供し診療に用いられます。また、令和5年に放射線治療機器が更新され、エレクタ社製「エレクティンフィニティ」が導入されました。今回導入された治療機器では、

従来から行われている放射線治療に加え、病変に対し回転させながら放射線を集中し照射することのできるSRT・SBRT(定位放射線治療・体幹部定位放射線治療)ができるようになりました。この治療は病変に高線量を照射し、正常組織への照射を極力減少させることができるため、副作用も少なく治療効果を向上させる効果が期待できます。スタッフ一同、日々進歩する放射線診療に対応し、常に向上心を持って診療にあたっています。

肺がん検診CTと骨塩定量検査は、希望があればいつでも検査できる体制となっております。お気軽にお申し出ください。



CT(コンピュータ断層撮影)



放射線治療装置「Infinity」

療育指導室

療育指導室は「福祉学(社会)」・「教育学」・「心理学」・「保育学」を基盤とした療育・保育支援により利用者の健全育成、QOLの向上と福祉の増進に努めていく部署です。

当院の療育指導室には児童指導員・保育士が配置されており、障害福祉サービスを利用する重症心身障害児(者)等への日常生活の指導、療育活動(療育計画と実践、行事の企画・実施等)、福祉に関する相談・支援を行っております。

また、入所支援計画書及び個別支援計画の作成、それらに基づいた療育の提供を実施していきます。一人一人の限らない自己実現を目指して環境を整え、適切な援助を提供し、自身の努力を促していく総合的行動を療育といいます。個人個人が持っている能力(個性)を最大限引き出し、生活の質を向上させるため、年間計画のもと集団や個別の指導・支援を行っています。お誕生祝い・入

学・卒業祝い・成人式・還暦お祝いなど、利用者一人ひとりの人生の節目を、ご家族・職員共々お祝いすると共に、外出行事・四季折々の行事を通して、季節の移り変わりを感じて頂けるように工夫しています。



きらら病棟 秋行事「きららスポーツの日」

栄養管理室

私たちはチーム医療の一員として、食を通じ患者さんの疾病の治療に関わっています。

給食提供の側面からは、個々の病状に即した、安全でおいしく食生活の見直しや改善に繋がる食事を提供することを中核の目標とした上で、行事食、季節食、選択メニュー食を取り入れることで食の楽しみを感じて頂き、喫食率の向上を図りたいと管理栄養士、調理師、事務職員等、様々なスタッフが協力して業務に当たっています。

また臨床に於ける側面から、栄養状態に課題がある方には、管理栄養士がベッドサイドに伺い患者個々の病状を把握し、栄養指導、栄養相談を行うことにより治療食や症状に対する情報を共有し、解決策を共に考え、提案していきます。加えてNST、褥瘡、摂食嚥下、緩和

ケア等、医療チームに所属し、専門性を生かした活動を行っています。

治療に食事療法、食事対応が必要な患者さんには、入院・外来ともに各種の栄養指導を行っております。また糖尿病食・高血圧症食の集団栄養教室も行っておりますので、ご希望の方は主治医に相談の上、おこしください。



メニューの一例

臨床検査科

「理念」

安心して信頼のおける検査を提供します。

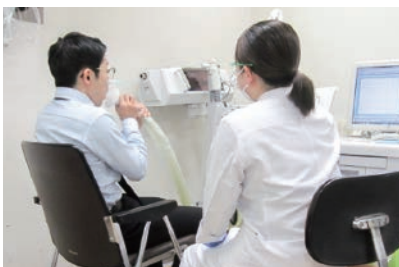
「基本方針」

1. 医療人として社会的良識を持ち、患者さんに安心して
できる検査を提供します。
2. 良質に精度保証されたデータを提供する為、専門的
知識、技術の向上に努めます。
3. チーム医療の一員として信頼される臨床検査技師を
目指します。

臨床検査科の業務は、患者さんを検査の対象とする生理検査部門、患者さんから採取された検体（血液・尿・喀痰・手術材料など）を対象とする検体検査部門の2つに分かれており、さらに検体検査部門は、検体分析検査、細菌検査、病理検査の3つの業務より成り立っています。

1. 生理検査部門：心電図検査、呼吸機能検査、脳波検査、超音波検査など

生理検査部門では、検査内容を患者さんに分かり易く説明し、安心して頂けるように心掛けております。



呼吸機能検査



心電図検査

2. 検体検査部門

①検体分析検査：血液検査、生化学検査、免疫検査、尿・糞便検査、輸血検査など

検体分析検査では、外来検体検査迅速対応を行っており、基本的に30分以内に外来へ報告しています。



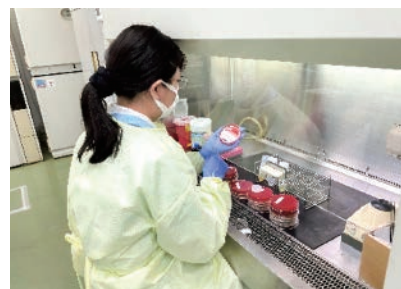
(左)自動血液凝固測定装置
(右)自動血球分析装置



生化学自動分析装置

②細菌検査：塗抹鏡検検査、培養、細菌の同定、薬剤感受性試験、結核菌PCR検査など

細菌検査では通常の細菌検査に加え、抗酸菌（結核菌など）の検査も行っています。PCR検査を導入しており、培養よりも早く原因菌が判明することがあります。



分離培養

③病理検査：胸水や気管支擦過・洗浄液などでの細胞診検査、手術材料などを対象にした病理検査

病理検査では、一般の病院と同様に病理、細胞診検査を主な業務としておりますが、アスベスト小体（石綿）の計測などにも取り組んでおります。



術中迅速凍結標本作成



組織標本の薄切作業

以上、ごく簡単に臨床検査科を紹介いたしました。その他にも月に一回の検査科内勉強会、各種研修会（院外）、学会発表・聴講などを通して常に新しい情報に接する事で、検査技師個人、検査室全体のレベルアップに努めております。

リハビリテーション科

当院は、肺がん、悪性胸膜中皮腫、COPD、間質性肺炎、結核を含めた様々な呼吸器疾患患者と、重症心身障害児(者)に特化した専門医療機関病院として位置づけられ、これらの対象患者に対してリハビリテーション業務を行っています。また術後すぐの急性期から緩和病棟患者のような末期患者まで幅広く対応し、ADL・QOLの回復をふまえたアプローチを心がけています。令和2年8月からは、休日(土・日・祝日)リハビリ(理学療法介入)の対応患者も、増加させて対応しています。このような体制を提供することで、少しでも患者さんの病状回復に寄与できればと考えています。

院内では、病棟毎に定期的に他職種カンファレンスに参加し、チーム医療推進のための情報共有を実施しています。また病状回復等に難渋するケース患者さんについては、退院(転院)に向けた個別のカンファレンスにも参加し、より職種の専門性を生かした連携や、補完しあえる医療を目指しています。担当患者さんへのリハビリテーションの提供以外でも、病棟の患者さんに対する各種ラウンド(栄養サポート(NST)、呼吸ケア(RST)、摂食嚥下、骨折予防)にかかわることで、より良いチーム医療を目指しています。



リハビリテーション科内の様子

医療機器室

臨床工学技士が、急性期の血液浄化療法や人工呼吸器管理から慢性期の酸素療法や在宅人工呼吸器管理などの業務を行っています。より充実した呼吸管理が行えるよう、多職種との連携を大切に、日々の業務に取り組んでいます。

具体的には、①医療機器管理(人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器等の中央管理、各種医療機器保守管理、機器トラブル時対応、医療機器台帳管理など)、②呼吸療法(人工呼吸器の設定等に関わる臨床業務提供、RSTラウンド、在宅NPPV、CPAPデータ解析、RTX、IPVによる呼吸、排痰補助、ハイフローセラピー管理)、③血液浄化療法(急性間質性肺炎、敗血症等へのPMX-DHP、CHDF、びまん性肺泡出血へのDFPP、PE、腹水濾過濃縮再静注法)、④重症心身障害児(者)病棟(人工呼吸器患者を中心とした療育カンファレンスへの参加、人工呼吸器

装着患者の療育活動等各種イベントの補助)、⑤手術室(手術室配置機器の保守点検)、⑥教育研修業務(人工呼吸器研修、新人研修、オープン勉強会、機器操作についての勉強会)などの業務を行っています。



医療機器室内の様子

薬剤部

薬剤部は「身近にいて、頼りになる薬剤師を目指して」というスローガンを掲げ、医療チームの一員として診療に携わっています。

昨今、医療の高度化・個別化が進み、毎年新しい薬が発売されています。安全・安心な医療を届けるために、医療に関わる各職種へ薬の適正使用に関する情報を提供できるよう日々努力しています。そこで、病院薬剤師の仕事について簡単に紹介させていただきます。

調剤業務：処方せんに基づいて薬を作ることです。薬を飲みやすくするため一緒の袋に入れる一包化や、病院で使用する注射薬の準備などを行います。また、検査値を確認して、患者さんの腎機能に合った薬の量を医師に確認・提案することも調剤時に行っています。

病棟薬剤業務：入院患者さんのより近くで活動するために、病棟に薬剤師が常駐し、持参された薬を調べたり、入院中に使用される薬の説明を行っています。また、使用された薬の効果や副作用のチェック、必要に応じて薬を主治医へ提案することもあります。

無菌調製：注射薬の中でも特別な取り扱いが必要な抗がん剤などの調製や無菌的な調製が求められる高カロリー輸液を調製しています。

製剤業務：製薬会社で発売されている薬のみでは十分な治療が出来ない時、病院で薬を作ることがあります。その薬を作る作業を製剤業務といいます。塗り薬や飲み薬などを作っています。

薬品管理：治療薬の温度・品質管理や適正な在庫管理を行っています。また、規制薬品（毒薬、麻薬、向精神薬）は数量管理等を厳格に管理しています。

治験：新しい薬の開発や適応追加のために病院で行う試験を「治験」と呼んでいます。その治験薬の管理・調製も行っています。

チーム医療：感染対策チームや栄養サポートチーム、化学療法委員会、抗菌薬適正使用支援チーム、緩和ケアチーム、医療安全委員会、褥瘡対策チームなどに参加し活動をしています。

外来患者への服薬指導：難治性非結核抗酸菌症の治療に使う吸入薬では、円滑に導入するための服薬指導、専用吸入器具の提供や使用方法の指導、定期交換が必要な器具の提供を行っています。

がん薬物療法連携充実加算：外来で化学療法治療を継続している患者さんを対象に、レジメン（薬物治療計画）の内容、副作用発現状況、検査値などを記載した化学療法患者情報提供書を患者さんと面談した上で作成し、それをを用いて地域の薬局薬剤師と情報共有を行い、質の高い医療提供を行っています。



注射業務



調剤



病棟業務



無菌調製

医療安全管理室

医療安全管理室は、当院の医療安全管理規程と医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に安全管理を担うために設置されています。

具体的には、①医療安全に関する日常活動に関すること(1.医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査(定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検)、2.マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等、3.インシデント報告書、医療事故報告書の収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価、4.医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知、5.医療安全に関する職員への啓発、広報、6.医療安全に関する教育研修の企画・運営、7.医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告、8.病院機

能評価機構への医療事故事例の報告に関すること、9.医薬品、医療用具等安全情報報告制度に基づく報告の支援に関すること、10.医療安全管理に係る連絡調整)、②医療事故発生時の指示、指導等に関すること(1.診療録や看護記録等の記載、医療事故報告書の作成等について、職場責任者に対する必要な指示、指導、2.患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認と必要な指導、3.院長又は副院長の指示を受け、医療事故の原因分析等のための臨時医療安全管理委員会を招集、4.事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導、5.医療事故の原因分析に関すること、6.医療事故報告書の保管)などの業務を行っています。

地域医療連携室

地域医療連携室は、患者さんに効率的で、満足のいく医療サービスを受けていただくために設置しており、患者さんや地域の方々や当センターを結ぶ窓口の役割を持っています。

地域の保健・医療・福祉サービスと連携しながら、当院を利用される患者さんやご家族の方が、住み慣れた地域の中で、安心して医療を受けられるように業務を通じて支援を行っています。

具体的には①受診・入院に関する相談・支援(検

診や受診に関する問い合わせ、セカンドオピニオンの受付、緩和ケア病棟の入院相談、結核に関する入院窓口)

②他院への紹介に関する相談・支援(外来受診予約に関する問い合わせ、転院に関する問い合わせ)

③退院に関する相談・支援(在宅支援、転院調整)

④医療・福祉相談(医療費や生活費の相談、入院療養中の困りごと相談、労災や石綿新法に関する相談、介護保険や障害者手帳に関する相談) ⑤各種情報提供についての相談 等です。

診療情報管理室

診療情報管理室では、診療情報管理業務・DPC関連業務・がん登録業務の3つを担当しています。診療情報管理業務は、主に統計業務(ICDコーディング)、カルテ監査です。DPC関連業務はDPCコーディングのチェック、DPC調査への対応、DPC委員会開催です。

がん登録業務は院内がん登録・全国がん登録・地域がん登録に関する業務になります。また、随時医師等の依頼に対し、データ提供を行っております。

教育研修担当室

教育研修担当室は、病院の理念、基本方針、その年度毎の運営方針を基に、全職員がその実践者として成長できるよう、職員研修の企画・運営・評価を行っています。また、地域における医療従事者の教育や地域住民の皆様へ健康教育などを通じて地域医療の向上に貢献することを目的に設置されています。

院内の職員を対象とする研修として、接遇研修やハラスメント、メンタルヘルスケア、虐待防止などを行っています。また、職場同士のコミュニケーションを深め、さらには病院の発展を目的に、各職場が日頃の活動や研究結

果を報告する学術コミュニケーションという会を1年に2回開催しています。地域の医療従事者の皆様へは、地域医療研修として、肺結核や感染症対策、肺がん治療の最新知識、緩和ケアチーム勉強会、褥瘡予防、NST研修などを開催し、ご参加いただいております。地域の皆様へは、市民公開講座として、「呼吸器フォーラム」「がんフォーラム」を開催しています。当院で行っている研修や市民公開講座に是非ご参加ください。また、ご意見やご希望などお寄せください。

看護部

当院は、365床の病床数を持ち、山口県における唯一の呼吸器専門病院です。肺がんをはじめとするがん診療では、診断・外科治療・化学療法・放射線治療、緩和医療と総合的に医療を提供しています。また、結核を含む呼吸器疾患、特に重症呼吸器疾患の診療にも力を入れています。さらに、当院は、重症心身障害児(者)の専門施設として、超重症児を受け入れるポストNICU(新生児集中治療室)の役割を担っています。

入院されている患者さんは、急性期から慢性期、そして終末期と多岐に渡り、遠方から治療に来られる方もおられます。また、地域との連携において多職種が協働して行うチーム医療のなかでの看護師の果たす役割は重要と考えています。

看護部では、病院の機能・役割が果たせるように看護職員それぞれが医療チームの一員として自覚

し、看護部の理念である「根拠に基づいた看護」が倫理観をもち実践できるように国立病院機構の「看護職員能力開発プログラム」を基盤に、新採用者から段階的に教育・研修を実施しています。また、専門性の高い当院の機能に対応できる「認定看護師」「特定行為修了者」の育成にも力を入れています。

地域に根付いた信頼される病院となれるように看護サービス向上においては、患者さん一人ひとりの尊厳とその人らしさを大切に、看護専門職として何をすべきかを考えながら誠意と思いやりを持って行動できる人材の育成と定着に努めています。



看護部長
中本 佳子

認定看護師

当院では、下記の認定看護師が活躍しており、各部署に配属されています。認定看護師と共に看護実践できることが、看護師の教育も含め、患者へ質の高いケア提供につながっています。認定看護師は様々な院内活動のメンバーであり、医師を始め他職種と協働し、組織横断的に活動しています。

1. がん性疼痛看護

がんによる痛み(身体的・精神的)を少しでも緩和し、患者さんやご家族が、その人らしく生活できるように支援しています。また

安全に鎮痛薬を使用できるよう、看護師の指導や、体制づくりをしています。



藤田 浩美

2. 感染管理

患者さんやご家族、職員を対象に活動しています。感染予防は、組織横断的に実施し、院内全体の感染管理に関する知識・技術の普及にも力を入れています。

毎週金曜日、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で院内感染対策の遵守状況や抗菌薬の使用状況を把握するため、ICTラウンドを実施しています。



古田 貴子

3. がん化学療法看護

がんに対する治療薬や治療方法、治療に伴う副作用に対する治療方法も次々に開発され、日々進歩し複雑化してきています。そのような中、患者・家族が安心して治療が受けられるように、治療や治療方法の説明や理解

度の確認、副作用症状のマネジメントを行い、患者さん自身がセルフケアを実践できるように支援しています。

また、医師や薬剤師と一緒に回診をしたりチームでサポートできるよう活動しています。



小嶋 麻衣子

4. 緩和ケア

緩和ケアとは「がんなどを抱える患者さんやその家族一人ひとりの身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」です。患者さんやご家族の価値観を尊重しつつ、つらさを和らげる方法を多職種で協働して提供しています。

また、緩和ケアチーム回診では、毎週火曜日と木曜日に、一般病棟の患者さんに支援を行っています。



村田 佳代子

5. 呼吸器疾患看護

酸素療法、人工呼吸療法を受けている患者さんを中心に、適切な呼吸ケアが提供できるように活動しています。また、呼吸器疾患看護専門外来を実施し、在宅患者さんの支援も行っております。

RST回診では、機器使用や環境調整などについて医師、理学療法士、臨床工学技士とともに検討し、患者さんや医療スタッフへの指導・アドバイスをしています。



佐伯 達矢

6. がん放射線療法看護

放射線治療を受ける患者さんとそのご家族の方を中心に、放射線治療に伴う苦痛の軽減や、長期間の治療に対する精神的側面も含め支援を行っています。

放射線治療に伴う有害事象などに向けたセルフケア指導や放射線治療に対する不安や悩みなどのサポートを行っています。

毎週木曜日には放射線治療室にて放射線治療医の診察に同席し、患者さんとご家族に



中富 雅子

7. 摂食・嚥下障害看護

安全に食事を食べて頂くことができるように、医師、言語聴覚士、作業療法士、栄養士とともに、月2回嚥下回診を行い、食事形態や摂取方法などの検討を行っています。

毎週金曜日のサポートチーム回診では、最適な栄養方法について多職種で検討しています。



中岡 篤美

8. 特定行為修了者

特定行為とは、看護の質向上と医師の業務負担軽減の一環としてこれまで医師が実施していた医療行為のうち、21区分38行為について指定の研修を修了した看護師が医師の指示の下に実施する行為を言います。当院では、2名の看護師が特定行為研修を終了し、現在実践を行っています。特定行為を実

践することが患者さんにとってもより良いケアとなり、看護の質を向上させるとともに後輩育成にも努めています。

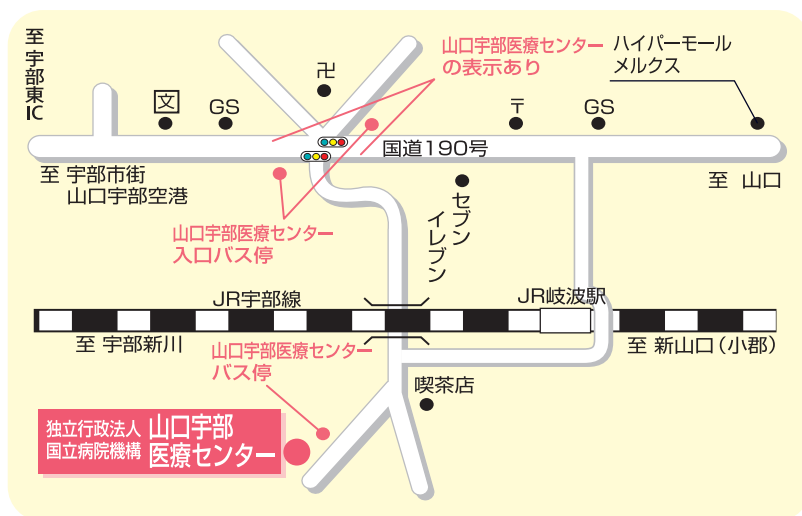


佐伯 達矢



田邊 さやか

MEMO



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

地域医療連携室

〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-4100(代) FAX.0836-58-2938

E-mail : 512-renkei@mail.hosp.go.jp

ホームページ



<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>